

# 金子学童保育室・金子第二学童保育室 第三者評価 最終報告書

評価担当者1: 中山芳一(岡山大学 全学教育・学生支援機構)

評価担当者2: 林田圭(日本放課後児童指導員協会)

実地評価実施日:2021年11月26日

	評価担当者 コメント	評価
共通評価基準	全体的に評価項目の内容をよく達成できており、特に項目17「職員の就業状況の管理」や項目18「職員の教育・研修」には独自の工夫が見られます。項目25「虐待の疑いのある児童」についても、関係機関と適切に連携しながら対応することができており、十分な対応ができています。項目40「育成支援の標準的な実施方法」についても、現場の職員の声を聴きながらマニュアルを作成できており、育成支援の質の底上げに一定の効果を発揮していると言えます。	A
内容評価基準 項目1～8	全体的に大きな問題はなく、子どもの最善の利益を求める育成支援の基本姿勢が支援員間に根付いていると考えられます。子どもたちも日々の生活の流れに納得感を持って理解しているようで、支援員の押し付けではなく子どもたちが自発的に行動している様子が見受けられました。 一方で、自己評価についてはやや甘いと言えるでしょう。特に項目8の「子どもの気持ちや意見を尊重した主体的な生活」については、工夫の余地も向けられました。育成支援の内容については、定まった正解はありません。より良い育成支援の内容を日々追求していきましょう。	B
内容評価 項目9～16	障害のある子どもや特に配慮を必要とする子どもについても、支援員間で連携して、時には関係機関ともつながりながら育成支援を進める体制が構築できている点が素晴らしいです。項目16「保護者との連携」については、日々のお迎え時に子どもについての情報伝達を行うよう努めていることが伺えた一方で、クラブとしての取り組みや状況を広く保護者に知らせる仕組みには工夫の余地があります。定期的な通信の発行や、壁面に子どもの生活の様子の写真を貼るなど、具体的な取り組みを行きましょう。	A
内容評価 項目17～20	項目17の「育成支援の目標」についてですが、「コマーム」のグループ内において様々な育成支援目標の文言自体は考えられていますが、それらの目標が実際の育成支援の工夫にはつながりきっていないことが課題です。せつかく目標を考える事ができているので、実際の育成支援につなげていくためにも、より具体的に目標を噛み砕いて職員間で共有していきましょう。 項目20の「事例検討」について、毎月研究会を開く事ができていることは素晴らしいことです。引き続き継続していくとともに、事例検討を行った際にはあとから振り返ることができるように記録をとることが必要といえるでしょう。	B
総評	特筆すべき点として、同じ小学校敷地内に位置する金子学童保育室・金子第二学童保育室間で緊密に連携を取りながら育成支援を進められていることがあげられます。今後も連携を大切にしながら、育成支援を行なって行ってください。その中で、各クラブで所属している子どもたちの要望や意見を取り入れながら、行事などで徐々にそれぞれの独自性が生まれてくることが期待されます。「コマーム」によるバックアップ体制が充実しており、現場の職員の悩みに寄り添っている点も特筆すべき点です。企業運営の良さが十分に発揮されたクラブ運営がなされていると言えます。引き続き、現場の職員の声を大切にしながら、サポートを行なって行ってください。	